



NPO法人
ヒマラヤ保全協会

IHC-JAPAN: The Institute for
Himalayan Conservation Japan

Shangri-la

シャングリラ



100円でヒマラヤに1本の  を植えよう!

One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.

総 会 報 告

理事
栗田康二

6月8日、早稲田大学早稲田キャンパス 9号館 714 室で総会が開催されました。議案はすべて承認されました。本年は、皆様のご支援に加えて、従来の緑の防衛委基金と新たにアジア共同生協基金の助成を受けて活動していきます。総会で承認された主な活動報告・活動計画を以下に示します。

■ 2018 年度事業報告

1. 現地植林・生活林再生事業の活動報告

1.1. 植林事業の概要

今年度は 3 村のプロジェクトサイトで植林・育苗が行われました。育苗本数はジーン村 16,030 本、バランジャ村 10,406 本、昨年度から苗畑を新設したパルバット郡のレスパル村 6,664 本となり、合計植樹本数 33,100 本（植林総面積 20ha）となりました（内訳は表 1 のとおり）。

ジーン村では、ヤギなどからの食害を防ぐためにフェンスを 3 月と 5 月の 2 回に分けて設置しました。環境デーに合わせて、現地の森林レンジャーと IHC-Nepal スタッフによる「環境を考えるイベント」が開催されました。

1.2. レスパル村の新規植林事業

IHC の植林事業には、昨年より新しくレスパル村での活動が開始されました。レスパル村では 2017 年より新しくナーサリーが設立され、育苗～植林活動が実施されています（図1）。レスパル村は 2 区画に分かれており、155 世帯（人口約 900 人前後）が暮らすこぢんまりとした美しい村並みが特徴です。この地域は急傾斜への植林が必要なことから、パツラマツの需要が高いとされています。



レスパル村第1次植林区として、ナーサリー南側の傾斜面約1.13haに植林が実施。



図1 レスパル村での植林状況

事業実施地	植林樹種							植林総本数 (本)	植樹面積 (ha)
	パツラマツ <i>Pinus Patula</i> (American salia)	オガタマノキ (チャムバカ) <i>Michelia Exceisa</i> (Sirmu)	フユザンショウ <i>Zantoxylum Armatum</i> (Timur)	イチジク <i>Ficus Semicordata</i> (RaiKhanyu)	オオバイチジク <i>Ficus Auriculata</i> (Nimaro)	リンゴパンノキ <i>Artocarpus Lakoocha</i> (Badahar)	コナラ <i>Quercus Lamellosa</i> (Thuilo Phalat)		
バランジャ村	5,245	3,515	1,146			500	10,406	6	
ジーン村	5,570	4,955	175	4,100	880		16,030	10	
レスパル村	6,082	313	14		181		6,664	4	
合計:	16,897	8,783	1,335	4,100	1,061	500	33,100	20	

表 1 事業地における植林総本数（2018 年度）

1.3. キウイ栽培事業の開始

【キウイ・ファーム事業の主な目的】

- ・キウイ・ファームのプロトタイプとしての運営取り組み。
- ・キウイ苗の育苗と販売。
- ・山村僻地での収入向上事業のプロトタイプとしての運営取り組み。

2015 年に起きたネパール大地震の復興支援活動を機に足を踏み入れたドラカ郡チャリコットで、長年キウイの育苗研究をされてきたシャムさんと出会うこととなり、講師として今後のご助言ご指導いただくことが決まりました。

ました。

こうして、当協会の事業地であるミャグディ郡、パルバット郡でもキウイのファームの取り組みが始まりました。

バランジャでは、ドラカより仕入れたキウイの苗により、独自のキウイ畑育成プロジェクトが進行しています(図2)。現在は 57 株のキウイ苗が試験区で元気に育っています。キウイ畑の栽培範囲はまだ 0.18ha と小規模ですが、おもに IHC-J のチトラさんとルケさんの手によって、試行錯誤しながら育てられています(図3)。



↑ 図 2 キウイ栽培エリア

図 3 キウイ栽培事業の様子→

2. 主な国内事業・活動報告

◇ IHC の紹介活動の一環として、ネパール料理店 AMA 早稲田店にて「第 5 回 昼ダル」を開催しました(11 月 18 日(日))。これには 4 名の参加者と、2 名の学生の参加がありました。

◇ 国際協力事業の理解促進のため、「c」(9 月 29 日(土))に出店しました。また同会場の別ブースでは、1970~90 年代の川喜田二

1970~90 年代の川喜田二郎先生のロープライン設営や植林活動を動画で紹介し、現在の生活林保全や織物・紙製品による収入向上プロジェクトまでの一連の流れを紹介しました。

◇ 長野県駒ヶ根市と JICA が開催している「みなこい国際まつり 2018」(10 月 28 日(日))に出店し、本会の事業活動から生まれた産物や活動内容の紹介をしました。



第 5 回 昼ダル



グローバルフェスタ2018

■ 2019 年度事業計画

1. ネパール現地事業

1-1. 生活林再生のアグロフォレストリー・プロジェクト

◇ 【パルバット郡】 昨年に引き続き、パルバット郡レスパル村に昨年度新しく建設した苗畑の整備・拡充を進めています。新しい事業地であるレスパル村の育苗目標は5,000本としています

◇ 【ミャグディ郡】 広大な植林需要を抱えるミャグディ郡バランジャ村とジーン村も、昨年に引き続き植林事業を推進していきます。本年度は各村で約15,000本の育苗を目指しています。

◇ ダウラギリ地域の事業地3村（ジーン村、バランジャ村、レスパル村）の植樹本数は、合計で約35,000を予定しています。

1-2. キウイ・ファームング・プロジェクト

◇ 昨年に引き続き、バランジャ村のキウイ栽培試験区の整備を実施し、本年度～来年度への最初の結実に向けた準備を進めます。

◇ 本年はバランジャ村の農家10～20世帯にキウイ苗を無償で提供し、「IHC 協力農家」としてキウイ栽培地の拡大と栽培者数の増加による地域理解の促進を進めます。

増加による地域理解の促進を進めます。

1-3. 非材木林産物活用プロジェクト

◇ 本年より、ポカラ近郊に新たにサンプルサイトを設営し、日本から持ち込んだ野菜・果物（トウモロコシ、シイタケ、ブルーベリー、梨、桃など）の種子を播種・栽培し、地域環境への定着について検証します。

2. 主な国内事業・活動計画

2-1. 国際協力イベントへの参加・広報活動・地球市民学習事業

◇ 現地・国内の活動はホームページで報告、会報は年に2回発行します

◇ グローバルフェスタ 2019 年度（10月）に出展し、当会の活動を広く一般の皆様にご伝えます。

2-2. ネットワーキング

◇ SDGs への取り組みをするマルチステークホルダー（政府機関、企業、NGO、教育機関）の共同勉強会に参画、各セクターの得意分野を生かした問題の取り組みへの学びを進めます。

2-3. 研究・提言

現地フィールドでの活動をアカデミックな視点で研究分析し、成果を論文にまとめ学会で発表します。

現 地 報 告

IHC-Nepalのルケシュ (Lukesh) さんが世界環境デーに合わせて行った植樹の報告です。(英文、写真はルケシュさんのFacebookより抜粋)

World Environment Day, 2019 "Air Pollution"
We celebrated the World Environment Day, 2019 in Gandaki province, Myagdi district, Mangala rural municipality ward No.4, Barangja for 2 days with the theme of "Air Pollution". We conducted the workshop on the topic of Global warming and Climate change on 04th of June and we planted 700 small saplings of pine on 05th June, 2019. We planted saplings to contribute something for green building which will eventually improve the quality of air. 28 students of grade 8, 2 villagers and 8 teachers of Shree Mahendra Ratna Basic School, Barangja were participants of the workshop. All together 73 Participants were involved in trees plantation program in Jhakripani, Barangja. The number of participants in such important program was so inspiring. Mr. Chitra was the resource person and I was the facilitator of the program. Small saplings were taken from the community forestry

taken from the community forestry nursery which has been operated by The Institute for Himalayan Conservation (IHC). IHC and Green fund financially supported to conduct the program.

If anybody wants to do something for better world together then please join us.



【日本語訳】

世界環境デー、2019年「大気汚染」

2019年の世界環境デーをバランジヤのマンガラ地方自治体区マガラ県ガンダキ県で2日間、「大気汚染」というテーマで祝いました。6月4日に地球温暖化と気候変動に関するワークショップを開催し、2019年6月5日に700本の小さな苗木を植樹しました。緑の建物に貢献するために苗木を植えました。バランジヤ村のShree Mahendra Ratna Basic Schoolの8年生、2人の村人、8人の教師の28人の生徒がワークショップに参加しました。合計73名の参加者が、バランジヤのJhakripaniで植林プログラムに参加しました。そのような重要なプログラムの参加者の数はとても刺激的でした。Chitra氏はリソースパーソンで、私はプログラムの進行役でした。小さな苗木は、ヒマラヤ保全協会（IHC）によって運営されているコミュニティナーサリーから採取されました。IHCと緑の募金はこのプログラムの実施を財政的に支援しました。どなたかがより良い世界のために何かを一緒にしたいと思っているなら、ぜひ私たちに加わってください。



現 | 地 | 活 | 動

会長
相馬拓也

バランジャ村では今年も引き続き、キウイフルーツ農園でキウイが元気に育っています。早生の苗木では、いくつかのキウイフルーツの結実も確認することができました（写真①）。今年度はアジア協力基金2019年度助成を得て、次の3つの活動に注力しています。

1. キウイ栽培区の整備と栽培指導
2. 地域のIHC協力農家との連携によるキウイ栽培区の拡張
3. 地域の学校へのキウイフルーツの紹介と環境教育

そのため、2019年4月にバランジャ村に出張し、IHCへの協力農家を募り、なかでもキウイ栽培に熱心な10家族を選定しました（写真②）。IHC協力農家さんよりご提供いただいた10地点の新規キウイフルーツ栽培区画の測量や調査もあわせて実施してきました（写真③）。



また6～7月にも渡航し、キウイフルーツに不可欠な栽培技術、①剪定、②人工授粉、③キウイ保管方法、④施肥や植物ホルモンなどの使用方法などについて指導を行ってきました（写真④）。実際に現地では、IHCキウイ試験区の除草・雑木の切り出しなどを実施し、マルチングによる育成促進などの作業を行ってきました（写真⑤）。

本年は、キウイフルーツのほかにも、日本からビワ、白桃、サクランボなどの果樹の種を導入し、実生苗（みしょうなえ：種から育てた苗）の栽培実験に取り組んでいます（写真⑥）。果樹の育成は地域の緑化に貢献するだけではなく、おいしい果実の収穫によるビ



ジネスチャンスをもたらす可能性があります。これからもさまざまな果樹栽培を通じて、植林事業を力強く補強する「アグロフォレストリー事業」（緑化と農林産物の収穫を両立する事業モデル）を、バランジャ村を中心に展開してゆく予定です。

第3回 ネパール語を学ぶ・・実際に役立つような表現と語彙②食事(カナ)編・・

ナマステ!今回は、食事(カナ)の際に使う表現と語彙です。

まずは「おいしい(ミト ツァ)」は、常に口をついて出るようにします。お店の人や作ってくれた人に喜ばれますし、言わないと「おいしくない?(ミト ツァイナ?)」ときかれることもあります。味については「唐辛子(クルサニ)」を使う料理が多いせいか、とても「からいです(ピロ ツァ)」という時があります。そういう時は率直に「自分はからいのは好きではない(マライ ピロ マンパルダイナ)」と言うと味付けを加減してくれます。もちろん「わたしは辛いのが好きです(マライ ピロ マンパルツァ)」という人もいますけど。その他の味については「甘い(グリヨ ツァ)」や「塩辛いです(ヌニロ ツァ)」「酸っぱいです(アミロ ツァ)」を知っていると便利。そしてこれらに「とても(デーライorエックダムorアッティ)」や「少々(アリカティorアリアリ)」をつけたすと表現を細かくできます。料理や飲み物の温度については「熱いです(タト ツァ)」「冷たいです(チソ ツァ)」「ちょうど良いですorまあまあです(ティッカイ ツァ)」をよく耳にします。また、「わたしは〇〇が食べたいです(マ 〇 〇 カナ ツァハンツウ)」を知っていると注文ができます。でもメニューを指さして「これください

(ヨ ディヌス)」「これとこれとこれください(ヨ ヨ ヨ ディヌス)」でも実は十分に通じま

す。最後に「わたしはおなかですいた(マライ ボオク ラギョ)」と「おなかいっぱい(プギョor ペット バリ バヨ)」も知っておくと便利です。さて練習です。次の文の意味は?

私「マライ アッティ ボオク ラギョ」
ネ「ケ カヌ フンツァ?」
私「マ ダルパート カナ ツァハンツウ」
ネ「マ パカウンツウ」
私「マライ ピロ マンパルダイナ」
ネ「フンツァ ヨ カヌス」
私「ヨ エックダム ミト ツァ、マライ ヨ カナ デーライ マンパルツァ」
ネ「タト ツァイナ?」
私「ティッカイ ツァ・・・タト ツィヤ ディヌス・・・ダンニャバード・・・メロ ペット バリ バヨ」

※ ケはwhat カヌフンツァ?は食べますか? パカウンツウは料理します フンツァはOK カヌスは食べなさい ツィヤはお茶 メロは私の ペットはおなか バリはいっぱい バヨはなった。
(文責:布施達治)



退任のあいさつ

戸田裕子

ネパールでの活動開始当初は、ガスも電気もなく、ヒマラヤの山村は太陽と共に眠りました。そこから14年間、私は山に生きる民族に寄せる時代の波とその影響と変化を見ていくことになりました。今から8年ほど前頃でしょうか。。急に携帯電話が普及しだしたと思った頃、畑仕事をほっぽらかしてテレビを見入る住民たちの後ろ姿を見かけるようになった時は何とも言えない気持ちでした。押し迫る消費社会の広告宣伝がひっきりなしに流れ続け、綺麗に着飾るインドのヒロインたちをみなただ呆然と口を開けたまま目で追っていました。無理ありません。この先どうなるかと思案しましたが、山にテレビが入って3年程経った頃だと思います、こんな会話を聞ききました。「テレビはあまり面白くない。」「うん。いつも同じね。」山岳部の女性たちは田畑に戻っていました。

元々一目置いていた山岳部の女性たちに私はその時再び、大いに魅せられました。彼らは、火を焚き、水を汲み、土壁を塗り、川の水を利用し、石臼を回し、麦やトウモロコシをひきます。水牛やヤギ、鶏を独特の音を出して誘導し、そのお宝を有効利用し、大



地を耕し、山の厳しい環境の中で様々な知恵でたくましく生きています。

まっすぐで、すべての物事を独特な方法で見極めます。見極めは鋭く容赦はありません。ピシャツとしています。何が大切か熟知しているのです。人の見極めも同じです。ひとたびよしと見極められたら、距離は一気に縮まります。なみなみと注がれた熱々の水牛のミルクの湯気の向こうに、「さあさあ熱いうちに!」と細い目を、より細めて笑う彼らに囲まれると、こちらにも、ただわけもなく嬉しくなります。美味しそうに熱々のミルクをすする音が部屋のあちこちから響くと至福の合唱になります。現地語で「ラマイロ!」の感覚。それは日本語で言う「うれしい」という気持ちに近く、魂がわけもわからずに陽気に踊るような感覚です。彼らはお金、手法、物質より魂を豊かにしてくれる大切なものを持っています。そしてそれは彼らを育む豊かな山や大地、自然が育んだものと確信します。ヒマラヤ保全協会を通してこのかけがえのない自然環境の再生に皆様と共に携わらせていただいたことを心から感謝するとともに、彼ら山岳民族の誇りとフォークロアがこれからも永代にわたって続くことを祈ります。これまで14年間ネパールでの活動をご理解、ご支援をしてくださった会員、サポーターの皆様、寄付を集めてくださった皆様、第二の母国となったネパールの家族友人たち、そして私が事務局長をしている間いつも支えてくださった全ての皆様にこの場をお借りして心より深く御礼を申し上げます。デレイデレイダンニャバード!!

事

務

局

だより

新体制発足！

6月8日の定期総会において、役員の交代が承認されました。相馬・栗田・佐久間・竹迫・布施の各理事が留任し、新たな監事に本田新市が就任しました。渡邊監事と戸田理事と清田理事が退任し、また事務局でサポートしていただいた松井さんもこの度お辞めになることになりました。長らくヒマラヤ保全協会の役員・スタッフして活動

していただき感謝申し上げます。今後ともご支援をよろしくお願いします。また3月2日の臨時総会において定款の一部を改訂し、事務所の登記上の所在地を新宿区から日野市へ、理事定数を6名以上から3名以上としました。なお事務所は、相馬会長の共同研究室である早稲田大学714号室となります。

イベント・ボランティア募集情報

9月28日(土)、29日(日)

グローバルフェスタ2019に出展します！
活動紹介や物販のお手伝いの
ボランティア募集しています！



寄付で支援する

100円で1本の木がヒマラヤに植えられます!!
1口 3,000円から何口でも結構です。
下記の振込み先にご送金ください。

マンスリーサポーターになる

毎月 1,000円 からマンスリーサポーターになることができます。マンスリーサポーターの皆様には、「活動報告書&計画書」年1回)をお送りします。

会員になる

年会費：個人会員 5,000円・団体会員 30,000円
会員の皆様には、現地の活動が盛りだくさんの会報『シャングリラ(Shangri-la)』をおとどけします。

■ みずほ銀行新宿南口支店
普通2005209
NPO法人 ヒマラヤ保全協会

■ 郵便振替
00100-0-709154
ヒマラヤ保全協会

※銀行振込みをご利用いただいた場合は、ご氏名(ふりがな)とご住所を、e-mailにてご連絡ください。

100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！ ご支援お待ちしております！

シャングリラ第105号 2019年8月1日発行 編集・発行 NPO法人 ヒマラヤ保全協会
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス9号館 7階 714号室
TEL: 080-3570-8458 e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp ホームページ: <http://www.ihc-japan.org>